

“函館がごめカフェ” 開催報告

道南技術士会の第2回幹事会（平成20年8月6日）において、「後援」を承認された“函館がごめカフェ”は、「都市エリア成果品販売促進連合」（以下「販促連合」と略す）主催にて、予定通り平成20年8月22日（金）に実施されました。以下に概要を報告します。

はじめに（経緯）

文部科学省の「都市エリア産学官連携促進事業（函館エリア）」（以下、「都市エリア事業」と略す）の参画企業による「販促連合」（代表者：富士海洋土木須田社長）は、和光デパート1Fにおいて、がごめ製品の知名度向上と販売促進を図る狙いにより、アンテナショップ“函館がごめランド”（がごめ製品即売所）を7月5日にオープンし、9月30日までの3ヵ月限定で営業を実施しました。また、その営業期間中に「販促連合」はより多くの人に、もっと“がごめ昆布”を知っていただくため、がごめ製品を試飲・試食しながら“がごめ昆布”の情報発信と消費者の声を聞く場として、“がごめ昆布”について語るイベント“函館がごめカフェ”を企画しました。

“函館がごめカフェ”の概要

主催「販促連合」、後援「渡島支庁、函館市、(財)函館地域産業振興財団、道南技術士会」により、道南技術士会の布村代表（「販促連合」副代表）のコーディネートで開催されました。

- 日時：平成20年8月22日（金）17：00～18：30
- 会場：和光デパート1F
- 定員：30名
- 話題提供：
 - ・「函館・海の印象派ガゴメ」…北大（安井先生）
 - ・「がごめ昆布の機能性の魅力」
 - …工業技術センター（青木さん）
 - ・「がごめポータルサイト～地域コミュニティー

形成におけるwebの利用～」

…ノース技研（橋本さん）

・「とろ～り“がごめ”レシピ集」

…函館水産物商業協同組合（秋保先生）



“函館がごめカフェ”の開催結果

一般市民の方々をはじめ、支庁・市役所・大学の関係者ら約50人の参加を得て、がごめを用いた料理や菓子をつまみながら、「都市エリア事業」の研究者らの講話に耳を傾けた後、意見交換を行いました。

地元の出席者の方々からの激励や貴重なご意見など、直接生の声で大いに盛り上げていただき、有意義に実施することができました。

当日、会場で行ったアンケート調査の結果は次項の通りです。



“函館がごめカフェ”でのアンケート調査結果

一般市民の出席者を対象に、がごめ製品の販売促進についてアンケートをお願いし、26名から回答をいただきました。

◇ 質問

- Q 1：「発表内容は如何でしたか？」
 Q 2：「今後、同様の企画があるとしたら？」
 Q 3：「“函館がごめランド”（がごめ製品即売所）について？」

◇ 回答

- Q 1：26名中25名→「がごめ昆布について理解できた」
 Q 2：26名全員→「参加したい」
 Q 3：26名全員→「継続して欲しい」

との圧倒的賛同の回答をいただくことができ、今後の販促活動にとって大きな励みとなりました。

函館圏の地域資源活用について（考察）

近年、都市と地方の地域間格差が拡大している中で、特に地域の資源を活用して、地域を活性化することが重要となっています。

当函館エリアでは「都市エリア事業」の一環として、地域特産の“がごめ昆布”の高付加価値化に取り組み始めてから約5年が経過した今春、文科省から「相応の成果が得られた」との評価を頂くことができました。

今後さらに、“がごめ商品”や“がごめ料理”のファンを増やし、一層消費を拡大し、“がごめ昆布”食文化を普及することによって、“がごめ昆布”を「地域産業」にまで育てていくことが必要です。

しかし一般に、独自の研究成果や開発成果がいろいろあっても、それを「商品・事業」まで仕上げていくシステムが弱いと、「地域産業」まで至ることができません。

「商品化・事業化」のためには、コスト、デザイン、信頼性、販売ネット、サービスネットなど解決すべき課題がつきまとい、多くの人・金・物・情報などを投入しなければならず、これをやらないと「商品化・事業化」に至らないで、開発した意味もなくなってしまいます。

「都市エリア事業」においても、がごめ製品の製

造・販売企業への関係機関の継続的な販促支援、一般消費者に対するがごめ料理法の普及など、「草の根的活動が不可欠」の所以であります。

“がごめ昆布”の地域産業化の目ざすところは、消費者の食生活の中に昆布食文化の拡大の源泉があり、がごめ産業育成を通じて、将来の函館圏の昆布食文化像が開けてくると考えられるからです。

よって、地元消費者に密着することが新たな展開に繋がるので、研究・企業化・消費拡大を同時推進することが重要と考えられます。



まとめ

従来より、当道南技術士会は『地域貢献が技術士会の方針である』と認識し、会員数名が文科省の「都市エリア事業」に係わって参りました。

最近では、布村代表自ら上記「販促連合」の副代表として活動されており、今回の和光デパート1Fへの“函館がごめランド”出店および“函館がごめカフェ”開催の中心メンバーとして、企画から実施まで尽力されるなど、市民と接点をもつ活動に積極的に参加され、技術士会の認知度向上に腐心されています。

今、地域活動のキーワードは「産学官民連携強化」と考えられます。「地元の人々に密着し、ニーズや意見を汲み上げ、企業と大学の協力により、新しい展開に結びつける」ことが、「産学官民連携強化」の要です。

今後とも、地元の方々との幅広い交流に努め、より連携できる機会を増やしていきたいと思っております。

（文責：道南技術士会副代表幹事 太宰 啓至）